

第三章 12) トランス・バール耕地 (セラーナ駅)



トランスバール耕地 セラーナ駅

*瀬古義信、1926年12月、ラプラタ丸で13歳時渡伯、岐阜県海津郡西江村沼新田出身、渡伯43(1970)年後、第二の故郷として訪れたのが最初の配耕先である、セラーナ駅トランス・バール耕地を13歳～16歳までの少年時代を過ごした思い出を馳せて遡る。

当時同船で配耕されたのが14家族、そして監督兼通訳が斉藤幸氏であった。

コロニアの下を流れていた小川で小魚を釣った思い出、樹や家が何時の間にか私を少年の日に引き戻してくれた。そこを辿ると牧場に出て、その中に墓地が昔のままポツツンとあり、ここには多くの雄図空しく病魔に倒られた人々や、血を血で洗う様な悲惨な死を遂げられた人々も土深く眠って居られ、その方々の冥福を心から祈って帰途についたと記される。

このセラーナの町には、大正末期から昭和初期にかけて日本移民が平時2百家族が出入して居たものと思う。前述の“血を血で洗う様な悲惨な死を遂げられた人々”には何か訳有りげな興味深い記述である。

義務農年後パラナ州カンバラ駅ノーバ・フローラ耕地に移転、後年ロンドリーナ市在住。

(瀬古義信 筆「半世紀」218～222ページ)

*南五郎、1927年4月、神奈川丸、兵庫県川部郡中谷村出身、兄喜三郎に連れられトランスバール耕地で2ヶ年就労後、パラナ州に移転、幾度か転じて着いたのがトレスバラス移住地タンボリン区であった。

(「トレスバラス移住地開拓20周年史」617ページ)

*池田豊三郎、1927年6月、岡山県川上郡富塚村出身、トランスバール耕地に1年半就労する。後年トレスバラス移住地中央区に入植する。(「トレスバラス移住地開拓20周年史」)

*川田春彦、1927年6月、高知県安芸郡西分村出身、同駅マルチノポリス耕地で就労6ヶ月目で父春吉氏が死亡する。後年パラナ州トレスバラス移住地セボロン区に入植する。

(「トレスバラス移住地開拓20周年史」320ページ)

*赤木平十、1927年6月、岡山県川上郡富塚村出身、トランスバール耕地に2ヶ年後、パラナ州カンバラ駅付近で就労すること4年でトレスバラス移住地中央区に入植する。
(「トレスバラス移住地開拓 20 周年史」687 ページ)

*小開喜代一、1928年9月、鎌倉丸、石川県鹿島郡出身、トランスバール耕地に2ヶ年半就労後、パラナ州へ移転数ヶ所転じてトレスバラス移住地タンボリン区に入植する。
(「トレスバラス移住地開拓 20 周年史」622 ページ)

*瀧波茂、1928年渡伯、静岡県安部郡井川村出身、同駅マルチノポリス耕地で義務農年終了後、ノロエステ線を転々としてパラナ州トレスバラス移住地バルサモ区に入植する。
(「トレスバラス移住地開拓 20 周年史」592 ページ)

*中山孝一、1929年1月、神奈川丸、石川県能美郡出身、トランスバール耕地で4ヶ年、1930年当時コーヒーは味曾有の大暴落で革命の導火線になったくらい、労賃不支払いは普通で耕主の倒産者が続出した。
(「見よ、拓人乃足跡を」16 ページ)

*塚本ツギモ、1929年5月、ハワイ丸、熊本県八代郡鏡町字野崎出身、兄村上栄松の家族で渡伯、同駅付近で義務農年終了後、モツカ駅付近でコーヒーの歩合で働くが、コーヒーの暴落で散々な目にあった。後塚本辰善と結婚してコリーナ駅付近で養蚕、綿作に従事する。(「熊本県人発展史」740 ページ)

*菅原豊次、1930年4月、ブエノス・アイレス丸、宮城県栗原郡有賀村出身、同駅マルチノポリスに配耕され義務農年遂行後、ブロドスキー駅モーロ・アルト耕地、さらにパウリスタ本線グアラニー駅（グアタパラ駅の次の駅）レスチンガ耕地で2ヶ年就労、以後パラナ州に移転、永住地をトレスバラス移住地パルミッタ区に求める。(「トレスバラス移住地開拓 20 周年史」574 ページ)

*平賀命助、1932年3月、ブエノス・アイレス丸、北海道瀬棚郡利別村出身、同駅トランスバール耕地で義務農年終了後、アララクワラ線カンブイ耕地に移りコーヒー園に働くこと2ヶ年。後年パラナ州トレスバラス移住地アサイ市に落着く。(「トレスバラス移住地開拓 20 周年史」786 ページ)

*島田興平、1932年3月、ブエノス・アイレス丸、北海道空知郡瀧川町出身、トランスバール耕地で義務農年就労、この地は斉藤幸氏が通訳として活躍した所でもある。後年パラナ州トレスバラス移住地カピウナ区に入植する。(「トレスバラス移住地開拓 20 周年史」491 ページ)

*吉田金太郎、1933年6月、モンテビデオ丸、高知県安芸郡西分村出身、同駅マルチノポリス耕地に就労すること1ヶ年、後三転してパラナ州トレスバラス移住地セボロン区に入植する。
(「トレスバラス移住地開拓 20 周年史」306 ページ)

*菅野直喜、1934年5月、アリゾナ丸、福島県安達郡山木屋村出身、同駅サン・ジョン耕地に就労。後年パラナ州トレスバラス移住地フィゲラ区に入植する。(「トレスバラス移住地開拓 20 周年史」286 ページ)

*野崎政義、1936年9月、アフリカ丸、熊本県八代市岡町谷出身、同駅トランスバール耕地で義務農年遂行後、東京植民地に移り、綿、米作を2ヶ年営む。(「熊本県人発展史」)